

ACE

Act and Communicate in English

特集

「もっと言いたい」を支える 語彙指導の工夫

Tips for Activities!

「職業と持ち物マッチング」

COLUMN

予測困難な毎日を生きる教員に
「安心・自由・教育効果」をもたらす
6つのポイント



特集 「もっと言いたい」を支える語彙指導の工夫

小学校の外国語科での語彙は、「全てを覚えて使いこなさなければならない、ということではない」とされています。では、小学校段階での語彙はどのような位置づけになっているのか、指導のときに気をつけるべきポイントはどのようなことか、酒井英樹先生に伺いました。

1 小学校で学ぶ単語は何語？

600～700語です。小学校学習指導要領(平成29年告示)外国語では、「(前略)第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語」を扱うと記されています。これは、5つの領域別の目標を達成するために必要となる語とされています。身近なこと、自分のこと、日常生活のことに関する単語を取り扱うようにし、児童にとって難しい話題にならないようにすることが大切です。

2 指導する単語数が多すぎませんか？

600～700という数字を見ると負担に感じるかもしれませんが、これらの語は、長い時間をかけて繰り返し聞いたり話したりすることを通して少しずつ学んでいくため、必ずしも多すぎるとはなりません。

小学校学習指導要領解説では、改訂前の外国語活動では400語程度扱われており、さらに200～300語を増やしたと書かれており、半分以上の単語は外国語活動から指導されています。北山(2020a, 2020b)によれば、*Let's Try! 1*では215語、*Let's Try! 2*では342語が扱われています。この語数にはアルファベット26文字と数字1～60が除かれていますので、第4学年で400語近くが指導されることが把握できます。また、*Let's Try! 1*で扱われた語が*Let's Try! 2*でも重複して扱われています。外国語活動で扱われた語を、外国語科においても引き続き聞いたり話したりする経験を繰り返して指導していきます。

外国語科においてはさらに200～300語を導入していくこととなります。外国語科は2学年間で140単位時間ですので、単純計算で1時間あたり1.4～2.1語を指導することとなります。1つの単元(UnitやLesson)が8時間配当であるとすると、各単元で11～17語の新出語を扱うこととなります。外国語科において新たに学ぶ単語についても、繰り返し使いながら少しずつ学ばせるようにしましょう。

3 受容語彙・発信語彙って何ですか？

受容語彙は聞いたり読んだりして意味が分かる単語のことであり、発信語彙は話したり書いたりする際に使うことのできる単語のことです。先ほど説明した600～700語は、受容語彙と発信語彙の両方を含めた数となります。

小学校学習指導要領では、言語材料(語彙、表現など)につ

いて、「また、児童の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること」と書かれています。漢字の学習を思い浮かべてください。読んで意味のわかる段階から、実際に書くことを通して徐々に書けるようになっていきます。英語の単語の学習も同様です。単語は、聞いて意味が分かるようになります。そして、聞いたり話したりする経験を通して、音声と意味の結びつきに関する記憶を強化させると同時に、効率的に単語を思い起こすことができるようになります。導入したばかりの単語は、すぐに話す際に使えることを期待せず、まずは受容語彙にすること(すなわち、聞いてその意味が分かるようにすること)を目指すとよいでしょう。

受容語彙に関しては、単語の一部の音声を手がかりにして意味を理解している(正確には、推測している)状態から、単語すべての音声を聞き取って意味を理解している状態に学習が進むことに留意しましょう。例えば、JuneとJulyを聞き間違える児童は、語頭のJuの部分の音を聞き取って意味を推測している状態と言えます。語末の音声の違いに注目させるようにして、JuneとJulyの違いを学ばせることが必要です。

発信語彙に関しては、語と語の意味のつながりに留意しましょう。例えば、好きな教科について話す際には、I like math. I want to be a scientist. I study math very much. など、mathに関して、scientistやstudyという単語が使われています。記憶において、これらの語のつながりが強ければ強いほど、即座に単語が思い起こされ、スムーズに発話することができるようになります。また、P.E.に対して、subject, favorite, sports, play, baseball, funといった単語が関連づけられて記憶されていれば、My favorite subject is P.E. I like sports. I can play baseball very well. It's fun. と発話しやすくなります。発信語彙にするためには、トピックごとに単語をリスト化して発音する機械的な練習活動だけでなく、実際に相手のことを聞いたり、自分が伝えたいことを話したりする活動の中で語と語のつながりを強くするよう指導することが重要です。

4 新出語をどのように導入したらよいですか？

児童が、単語の意味と音声の一致に気づくことができる機会を設けましょう。意味と音声の一致については、2つの方向性があります。

第1の方向性は、意味を理解した上で英語の音声に出合わせる流れです。イラストなどの非言語情報や児童がもっている既存の知識に基づいて、伝えようとする意味を把握させます。その上で、英語の音声を聞かせていきます。

第2の方向性は、英語の音声に気づいた後に、どのような意味なのかを把握させる流れです。例えば、教師がI have a tennis racket. It's old. Old. と英語で話します。児童がoldという単語の音声に気づいた後で、実際のラケットを見せたり、new / old の対比を示すイラストを見せてoldのイラストを指さしたりして、意味を把握させます。

英語の音声に出合わせる際には、日本語と英語の音声の違い(子音・母音の特徴、強勢など)に気をつけましょう。例えば、児童が「オールド」とつぶやいていたら、oldの音声を聞かせて、オーではなく /ou/ (オウ) と発音すること、ルドではなく /ld/ と発音すること、/ou/ の部分を強く発音することなどに気づかせるようにしましょう。

5 単語リストはどのように活用したらよいですか？

トピックごとに単語が示されたリストを活用する際には、発音練習や覚える練習だけにとどまらず、聞いたり話したり際に単語を使えるようにすることを意識しましょう。

聞くことの練習活動に関しては、単語だけでなく、表現の中でも理解できるようにしましょう。例えば、教師がnew, old, tall, slowといった単語を読み上げて、その単語のイラストを示す活動では、「これから先生が持っているものを紹介するよ。どんな状態か、イラストを選びましょう」と指示をして、“I have a dog. He is old.” や “I have a car. My car is new.” という英語を聞かせて、old や new を示すイラストを選ばせます。単語単体を聞くよりも、音のつながりの中で単語を切り出すのは難しくなりますが、聞くことにおいて活用できる知識及び技能の指導のために重要です。



話すことの練習活動に関しては、機械的に発音しているのではなく、意味を分かりながら発音しているかを確認しましょう。順番通りに発音するのではなく、ランダムに指定したイラストを見て、単語を発音させたりします。

聞くことの言語活動に関しては、教師がリストにある単語を使って自分のことを伝える活動を設定します。例えば、「先生のことをもっとよく知ってもらうために、これからペットについて話します。初めて知ったことをメモしてください」というように聞く目的を設定し、“I like dogs. I have a dog. His name is Shiro. He is white. I like Shiro very much. He is small and cute. He is 10 years old. He is old. But he can run fast.” と話します。リストにある状態を表す語 (small, cute, old など) だけでなく、既出の表現 (I like ..., I have ..., He can ... など) をたくさん使いながら語りかけます。その中で、児童は、「犬が好きっていうのは知っていたけど、犬を飼っているのは知らなかったな」「白いから名前をシロにしたんだな。初めて聞いたな」「小さくて、かわいくて、年をとっているんだ」というように、目的に応じて具体的な情報を聞き取ることができます。

話すことの言語活動に関しては、リストにある単語を使いながら教師が児童に問いかけてやり取りをしたり、トピックを示して児童同士で自分のことについてやり取りをさせたりしましょう。先述のように、発信語彙にしていくためには、語と語のつながりを強めていくことが重要です。既出の語句や表現も使わせていきましょう。

北山長貴 . (2020a). 「小学校外国語活動」の語彙と表現 : 「Let's Try! 1」の分析 『生活文化研究所報告』 第 47 号 , 11-27.

北山長貴 . (2020b). 「小学校外国語活動」の語彙・句と表現 : 「Let's Try! 2」の分析 『山形県立米沢女子短期大学紀要』 第 56 号 , 19-41.



酒井英樹 (さかい ひでき)

信州大学学術研究院教育学系教授。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語ワーキンググループ及び言語能力の向上のための特別チーム委員を務めた。小学校英語教育学会理事、日本児童英語教育学会理事。

「もっと言いたい」を支える語彙指導の工夫【実践編】

小学校段階での語彙の扱いに気をつけながら、活動の中で子どもたちの表現の幅を増やしていくためにはどのように指導していくのがよいのでしょうか。授業での具体的な語彙の指導について、金沢大学附属小学校の乗富智子先生にご紹介いただきます。

はじめに

CROWN Jr. では、各学期の初めに Get Ready という学期全体を見通す時間が設定されています。6年生の1学期は、Welcome to our school. という学校を紹介する活動が位置づけられていることから、学習のゴールを「新任の先生に附属小学校を紹介しよう」と設定しました。そのゴールを達成するために、各レッスンの学習を積み重ねていきます。最終的なゴールで必要となる語彙は、行事、季節、12の月の言い方、動作を表す言葉、様子を表す言葉などです。また、we を主語とした、We have ～. や We can ～. などの言い方も新しく学習します。

私は最終ゴールを常に意識させつつ、各レッスンでもミニゴールを設定し、子どもが学習の目的を意識できるようにしています。Lesson 1 We are from India. では、「友だちとの共通点を探そう」というミニゴールを設定し、これまでに学習した表現を使いながら友だちに質問し、友だちと自分との共通点を見つける学習をしました。Lesson 2 We have Children's Day in May. では、「自分の住むまちを友だちに紹介しよう」というミニゴールを設定し、自分の住むまちにある施設や、地域のお祭りなどを紹介し合う学習をしました。

本稿では、この実践を例に、語彙指導について、特に各レッスンで行った新しい語彙や表現に出合わせる指導の工夫に焦点を当てて、ご紹介します。

Small Talk での指導

毎時間の授業の初めに、必ず Small Talk を行っています。本校では、聞くことの指導を重視しているため、6年生であっても子ども同士にすぐやり取りをさせるのではなく、教師の話す英語をたっぷりと聞かせることから始めます。話題は、季節に合ったもの、子どもの興味関心のあるものなど、子どもが楽しんで聞くことができるものにしています。

Small Talk の中には、単元で必要となる言語材料を入れるよう工夫しています。トピックに関連のある単語を複数入れたり、指導したい表現をくり返し聞かせたりします。Lesson 2 では、季節や12の月の言い方、まちの様子や施設を表す単語を指導することになっているので、世界の国々の学校行事や、石川県の観光名所、日本各地のユニークなかき氷などの話題を取り上げ、その中で場所を表す言い方や We have ～. という表現にたくさん触れることができるようにしました。

以下は、石川県の観光名所を取り上げた Small Talk の例です。様々な施設の言い方や様子を表す言葉、We ～. を使った文章にくり返し触れられるようにしています。

Where is this? This is Kenrokuen Garden. This is the most famous place in Ishikawa. We have many nice places in Ishikawa.

This is Kanazawa Station. We have a big gate in front of the station. It's very beautiful. Many tourists take pictures.

This is Chirihama Nagisa Driveway. We can drive a car along the beach. We can enjoy the nice view.

Panorama を活用した指導

CROWN Jr. には、各レッスンの冒頭に Panorama というページがあります。細かなところまで丁寧に描かれたイラストは、子どもたちにとって魅力的です。この Panorama のページの指導では、まずイラストに描かれているものについて子どもたちとやり取りをすることから始めます。

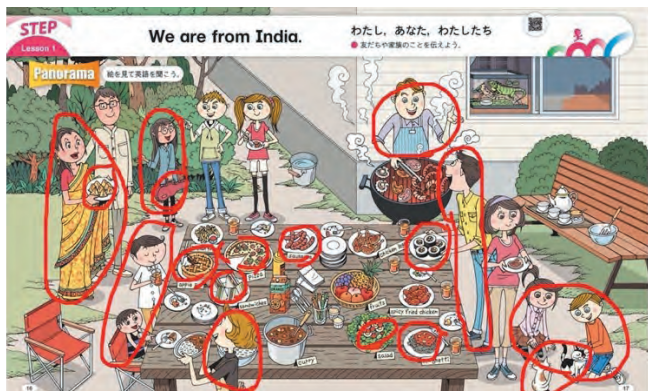


CROWN Jr. 6 Lesson 1 Panorama

Lesson 1 の Panorama には、登場人物やその家族たちが集まってバーベキューパーティーをしている様子が描かれています。イラスト右下にいる登場人物の Nick と Yumi が二匹の猫と遊んでいる絵を指し示しながら、Who is this? He is Nick. He is wearing an orange shirt. They are playing with animals. What are they? Yes, they are cats. などと子どもたちとやり取りをしながら、Panorama の音声に出てくる単語を少しずつ聞かせるようにします。

Panorama の音声は、一度聞いただけではなかなか理解できないので、複数回の授業で、何度もくり返し聞かせます。少しずつ聞き取れるようになってくると、聞こえてきた単語を指さしたり、イラストに印をつけたりしながら聞かせます。丸を

つけたページをタブレット等で撮影させておくと、どんどん聞き取れた内容が増えてくることを子どもたちも実感できます。また、撮影したページを提出させることで、子どもの聞き力がどれくらい身についているのかを評価したり、その後の指導に活かしたりすることもできます。



Word Chant の指導

Word Chant は授業の初めにウォーミングアップとして活用することも多いですが、その間かせ方や単語との出合わせ方も工夫することができます。Lesson 2 の Word Chant には、季節や学校行事の言い方が出ています。すぐに音声聞かせるのではなく、まずは絵を見て、They are four seasons. What season is it? などと問いかせ、何について描かれているのか、子どもとやり取りをしながら、単語の意味を確認します。その後で、文字は見せず、まず音声だけ聞かせ、知らなかった単語の言い方を知ったり、日本語との発音の違いについて気づかせたりします。絵を見てスラスラと単語が言えるようになった段階で、文字を見せ、音と文字をつなげて指導します。

Spotlight の指導

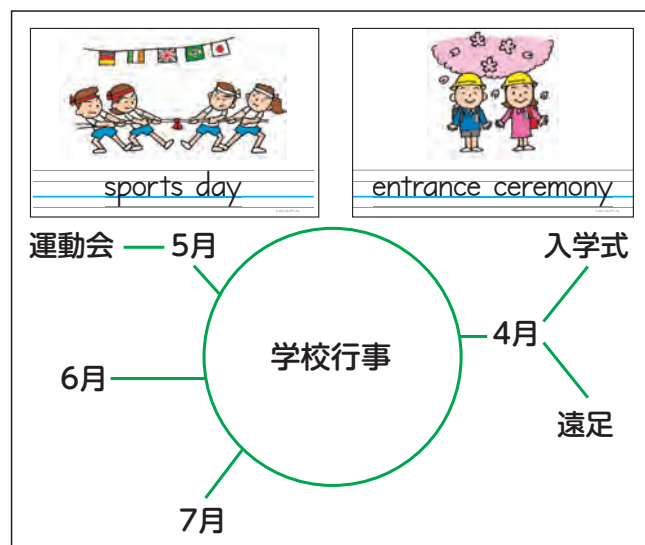
Word Chant とは異なり、Spotlight では主に文構造の指導をします。ここでもまずは絵を見せて、描かれているものについてやり取りをしながら、吹き出しの中を想像します。例えば、Lesson 2 Part 2 の Spotlight A には、ひな祭りの絵が描かれています。What's this? と子どもに問いかせ、子どもが「ひな祭り！」と答えると、Yes, it is the Doll Festival. When do we have the Doll Festival? Is it in January? Is it in February? などと問いかけていく中で、Doll Festival や March という単語を子どもにくり返し聞かせ、We have the Doll Festival in March. という文につなげていきます。

言語活動に必要な単語の指導

前述の通り、1学期の最終ゴールは「新任の先生に附属小学校を紹介する」というものです。子どもたちが紹介したいことを考える中で、行事は必須の単語になります。行事の単語を指

導するときに、ここでも子どもとのやり取りを通して、指導を工夫することができます。

図のように、黒板の中央の円の中に「学校行事」というトピックを位置づけ、そこから関連する単語を子どもたちとやり取りをしながら、どんどんマップの中に書き込んでいきます。Let's talk about our school events. What do we have in April? と尋ねながら、4月という単語を書き込みます。子どもたちは「入学式」や「遠足」など、日本語で答えても構いません。教師はその言葉を受け止めながら、Good. We have the entrance ceremony in April. と言いながら、「入学式」という単語をマップに書き込みます。子どもたちは教師の話す英語を聞いて、「入学式」を entrance ceremony ということを理解します。entrance ceremony を子どもたちと一緒に言ったり、リピートさせたりしながら少しずつ定着を図ります。How about in May? と尋ねれば、他の月の言い方やその月の行事などについて、やり取りをしながら単語を指導することができます。



ここで注意したいことは、子どもたちが伝えたいことを考えたり伝えたりする活動になってはじめてこのような指導をするのではなく、単元の前半からこの指導をして、話す活動に必要な単語をあらかじめインプットし、くり返し触れさせておくことです。このような指導をしておかないと、伝えるときになって、英語で何と言えればいいかわからず、先生に聞いたり、必要以上に翻訳ソフトを使ったりするなど、単語調べに終始してしまいます。単語はすぐに身につくものではありませんので、ふだんからくり返し触れさせながら、指導することが大切です。



乗富智子(のりとみ・さとこ)
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校非常勤教諭。金沢市内の公立学校勤務を経て現職。

Tips for Activities!

やってみよう
英語活動

He / She is ~. の表現や職業の単語を学習する活動において、子どもたちが楽しく取り組みながら定着を図ることができるアイデアを、名瀬浩司先生にご紹介いただきます。

「職業と持ち物マッチング」

使用するもの

● 職業カード 6枚

● 持ち物カード 6枚

それぞれの職業の人が持っているような持ち物

(例：料理人とフライパンなど)

※カードは両面にマグネットがついているもの

手順

1. 職業カードと持ち物カードに分けて黒板にそれぞれのカードを裏向きにして、6枚ずつ貼ります。

2. 子どもを1人、黒板の前に呼び、職業カードの中から、カードを1枚選ぶよう伝えます。

T: Choose one card from 職業 cards.

S: (ランダムに選ぶ)

T: Who is this? (カードをクラス全体に見せながら)

Ss: Cook!

T: Yes, he is a cook. (文で聞かせる)

3. 持ち物カードの中から、同じようにカードを1枚選ぶよう伝えます。

T: Choose one card from 持ち物 cards.

S: (ランダムに選ぶ)

T: What is this?

(カードをクラス全体に見せながら)

Ss: Net!

T: Yes, this is a net. (文で聞かせる)



4. 職業と持ち物のマッチングが合っているか子どもたちに尋ねます。

T: Does he have a net?

Ss: No!

(“No!” だった場合、カードをもう一度裏返し、違う子を指名し直し、同じように繰り返します)

この手順で、黒板のカードが全て正しい組み合わせになるまで繰り返します。マッチしたカードは、写真のように並べて貼り直し、表現する文章を板書し、何度も子どもたちといっしょに、「誰が何を持っているか英語で確認しよう。」と言って、音声と文字と意味(カード)を一致させていきます。

子どもがカードを選ぶとき、漁師にフライパンが選ばれていたり、警察官に網が選ばれていたりなどすると、「それでどうやって魚捕るの!」や、「網で犯人を逮捕するんだ!」などと言って、楽しく和やかな雰囲気の中で学習を進めることができます。



Teacher Talk

Who is this?

児童が引いたカードの職業を尋ねる時に使用します。What is this job? などと尋ねるよりも、子どもたちにとって理解しやすく、職業の名前を答える時に便利な聞き方です。

He / She is a cook.

子どもは単語で答えることが多いので、教師は文でたくさん聞かせることを意識します。途中で「ここまで出てきた職業の人たちを英語で確認しよう」と伝え、最初から“He is ~. He is ~.”と何度も聞いたり言ったりすることで、表現が定着します。



名瀬浩司(なぶち こうじ)

東京学芸大学附属世田谷小学校教諭。研究テーマは「楽しんでいるうちに英語ができてしまう授業の研究」。実践研究や論文執筆の傍ら、小学生用の英語教材の執筆や監修も行う。

予測困難な毎日を生きる教員に 「安心・自由・教育効果」をもたらす6つのポイント

教員の毎日は選択の連続です。しかも、子どもとの世界では、マニュアルにもない予測困難な出来事に瞬時の選択が求められることが常。その上、最近では異常気象や社会不安で突発的な出来事も多く、教員が選択を迫られる場面も増え、またその中身も多岐に渡ります。本来は、そのような中で子どもたちと一緒にその場をつくっていくことが教員のやりがいでもあり楽しさでもあるのですが、実際は多忙な中で負のスパイラルに巻き込まれてしまう教員も少なくありません。ではいったい、この予測困難な毎日でも、忙殺されず、安心して自由に、かつ効果も上げる教育ができるようになるにはどうすればよいのでしょうか。

そのカギは「教員一人ひとりの自律」にあると思います。ただし、「自律」といっても一人で全てを解決することではありませんし、授業も教材も自作すべきというわけでもありません。以下、長年の研究・実践から、教員の自律に必要な6つのポイントを挙げます。

- ① **教育／指導の目的を理解している。**
(I know why I am teaching.)
- ② **教育／指導の内容を理解している。**
(I know what I am teaching.)
- ③ **自分に合った教え方を選び実行できる。**
自分に合わない教え方をやめる方法を知っている。
(I know which style of teaching fits me.
I can change if that style stops working for me.)
- ④ **(指導にあたって)同僚や保護者、社会と協働できる。**
(I can work with colleagues, parents, and people outside of school cooperatively.)
- ⑤ **「依存」のしかたを知っている。**
(I know when / who / what / how to ask for help.)
- ⑥ **自分自身を評価するポイントをもち、
自分の指導力を客観的に判断することができる。**
(I have a way to evaluate myself.
I can objectively judge my teaching.)

(「自律的指導者とは」© educore)

では、ここで、前述の6つのポイントを実践に当てはめ、「自律的指導者」につながる思考を考えてみたいと思います。

例えば、5年生の授業中に、「I like dog.」と発話する児童がいるとします。皆さんは、この児童に何らかの指導を行いますか。特に指導せず授業を進めますか。

ここでは、まず「①目的」から考えてみましょう。何の

ために英語教育をするのか。何のために教育があるのか。自分なりの答えがあれば、その場での選択が比較的容易にできると思います。ちなみに私は英語の運用力を育てたいため、何らかの指導を行うことを選択すると思います。「指導する」を選択した場合、次は「②指導の内容」です。「①目的」のために子どもが何を身につける必要があるかが分かっているればそれが指導の内容となります。そして、その次は「③方法」です。目の前の子どもたちに合う方法を選択することはもちろんですが、指導者自身にも合う方法かどうかも重要です。学年や学校、教科書などから、「〇〇を用いて教える」など、方法についての縛りを受けますが、自分に合わない教え方を選択してもあまりよい結果は生まれません。自分に合わない場合には、代替方法を考えましょう。とはいえ、自分の考えがいつも正しいとは限らないので、「④協働」で精査や補完ができると安心です。そもそも、自律には「⑤依存」が欠かせません。自分一人で全てをできるわけではないので、一人で抱え込まず、必要な時に適切な人／もの／場所に助けを求めることを意識したいものです。余談ですが、依存方法を知っていることは自律にとって重要なことなので、子どもたちにも伝えたいところです。ふだんから、指導者自身が自分が分からないことを「あえて」子どもたちの目の前で誰かに聞いたり辞書で調べたりして、依存して解決する姿を子どもたちに見せておきたいですね。最後は、自律で最も重要な「⑥自己評価」です。今の自分がどういう状態か、自分の選択は適切かなど、自分を客観的に見られるかどうかは全ての始まりです。例えば不安や苦しみを感じる時に、その原因は「①目的」がはっきりしないから？ 「③方法」がうまくいっていないから？ など、①から⑥のポイントを活用して、今の自分を見つめてみるとよいですね。なお、この6つのポイントは、学習者にも人生にも適用させることができます。

教育現場は予測困難な毎日ですが、「自律」があれば、きっと全てを自分らしく乗り越えられることでしょう。



入江 潤(いりえ・じゅん)

一般社団法人 サステイナブル教育開発機構
educore 代表理事、元明星(みょうじょう)学園
小学校副校長。

英和・和英辞典は中学生の必需品!卒業記念にぴったり!!

三省堂の名入れ辞典



お求めやすい価格の
卒業記念用
特製版 をご用意
しております。

ジュニアクラウン ジュニアクラウン
中学英和辞典 **中学和英辞典**
第14版 **特製版** 第12版 **特製版**

田島伸悟・三省堂編修所 [編] 田島伸悟・三省堂編修所 [編]
B6判 オールカラー 928ページ B6判 オールカラー 640ページ

定価 **1,200円** 定価 **1,200円**
(本体 1,091円+税10%) (本体 1,091円+税10%)

卒業記念サービスの詳細・申込方法はこちら…<https://www.sanseido-publ.co.jp/sotuki.html>

辞書の購入でWebアプリがプラス! さらに便利に学びがプラス!



辞書活用の新提案!

新しい学習スタイルのなかでも、辞書をしっかり使ってしっかり学ぶ。
Webアプリだから、タブレット端末でもスマホでも。
インストール不要ですぐに使える!

- 辞書の各項目をオンラインで検索できます。
- Webアプリだから、端末の種類を選ばず、いろいろな環境でご利用いただけます。スマホでもご利用いただけるから、辞書へのアクセスがプラス!
- インストール不要だから、「1人1台端末」の活用をスムーズに促すことができます。



◀サービスへのアクセスは
こちらから



無料

和英インデックス
も搭載 (英和)

個人情報の登録不要!

ことまな+ (プラス)

カンタン 2 ステップ

- ① ID設定
- ② 辞書に封入のシリアルコード入力

- ご利用にはインターネットへの接続が必要です。
- 1つのシリアルコードにつき、1ユーザーのご利用となります。
- スマートフォンやタブレット端末のご利用は、保護者や先生がたのご指導のもと行ってください。
- 画面は合成です。実際のものとは異なる場合があります。

三省堂教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

令和6年度版 CROWN Jr. ウェブサイト <https://tb.sanseido-publ.co.jp/06cjr/>

三省堂 〒102-8371 東京都千代田区麴町 5-7-2

※この冊子は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って配布しております。